

知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校中学部 保健体育科の武道における少林寺拳法指導プログラムの開発 —特別支援学校（聴覚障害）における実践を通して—

Development of the *Shorinji Kempo* Martial Arts Program Conducted in the
Lower Secondary Department's Health and Physical Education Class of a
Special Needs School That Educates Students with Intellectual Disabilities:
Through Lessons and Practice in a Special Needs School
for Hearing Impaired Children

天海丈久*・保村崇有**・工藤知哉**・根深諒太**
加福千佳子**・池田香織***・秋元宏介****

Takehisa AMAGAI, Takasumi YASUMURA, Tomoya KUDO, Ryota NEBUKA
Chikako KAFUKU, Kaori IKEDA, Kohsuke AKIMOTO

要旨

平成29（2017）年に告示された知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校中学部保健体育科に武道が新設され、知的障害教育においても武道の指導が実施されることとなった。しかし特別支援学校の知的障害教育においては武道の指導の蓄積がほとんどなく、また運動種目の決定に当たっては、生徒の障害の状況や発達の段階を十分考慮し、検討を行う必要がある。そこで知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校中学部保健体育科の武道の指導における少林寺拳法1・2段階の評価規準及び指導プログラムを、授業研究を通して開発することを目的に、本研究を3年計画で実施した。本論は初年次の結果を報告するものであり、少林寺拳法1・2段階の評価規準及び中学部第1学年の少林寺拳法指導プログラムと、関連して聴覚障害者及び知的障害者にとって有用と考えられる支援方法を提案した。

キーワード：少林寺拳法、特別支援学校中学部保健体育科、武道、聴覚障害、知的障害

I. はじめに

平成18（2006）年の教育基本法改正で、教育の目標として「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」が新たに規定された。これを受け、平成20（2008）年改訂の中学校学習指導要領では、それまで選択領域であった武道を、男女共に全ての中学生が第1、第2学年において学習することになった。

一方、特別支援学校中学部学習指導要領に示されている、知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科の保健体育科（以下、「保健体育科（知的障害）」とする。）においては、平成21（2009）年改訂版に武道は示されておらず、平成29（2017）年改訂版で武道が内容の中に新設された。『特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）』（文部科学省，2018d）によれば、「武道の運動種目は、学校や地域の実態に応じて相撲、剣道又は柔道などから一つを取り扱うとともに、3学年を見通した指導計画のもと、適切な授業時数を設定し、効果的、継続的に指導できるようにすることが大切である。」とされている。また知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校中学部の各教科の目標及び内容は、学年ではなく2つの段階で示され、中学校の各教科と同様、「知識・技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理された。

* 弘前大学教育学部 Department of Special Needs Education Course, Faculty of Education, Hirosaki University

** 青森県立弘前聾学校 Aomori Prefectural School for the Deaf, Hirosaki

*** 青森県立黒石養護学校 Aomori Prefectural School for Special Needs Education, Kuroishi

**** 一般財団法人少林寺拳法連盟 Japanese Shorinji Kempo Federation

平成29（2017）年に告示された学習指導要領は、中学校では令和3（2021）年度から全面实施となっており、知的障害者である生徒についても保健体育科の中で武道を指導する必要がある。しかし、保健体育科（知的障害）では、これまで武道が示されていなかったことから指導の蓄積はほとんどなく、少林寺拳法では高坂（2019）が確認できるのみである。また少林寺拳法は、柔道、剣道、相撲の他に履修させることができるとされているが（文部科学省，2018b）、令和2（2020）年度の全国国公立中学校での実施率は、柔道52.7%、剣道34.9%、相撲2.9%に対し、少林寺拳法0.3%（吉川，2021）と低く、特別支援学校において実施している学校も長野県立松本ろう学校1校が確認できるのみで（一般財団法人少林寺拳法連盟ホームページ）、対象も中学校に準ずる教育課程の生徒を基本とするものであった（桑島，2019）。

少林寺拳法は、既存の施設で実施できること、新たな備品が必要ないこと、安全に実施できること、自信と勇気と行動力を習得し、思いやりと正義感を養うことを目標としていることから、特別支援学校において採択しやすいことが考えられ、特に保健体育科（知的障害）の武道における少林寺拳法指導プログラムについては、今後の武道の指導を鑑み開発しておく必要がある。そこで、保健体育科（知的障害）の武道の指導における少林寺拳法1・2段階の評価規準及び指導プログラムを、授業研究を通して開発することを目的とし、本研究を実施した。なお本論では、研究初年次の結果を報告する。

II. 方法

本研究は、授業研究を通して検討を行う3年計画で実施した。初年次は保健体育科（知的障害）の武道の指導における少林寺拳法1・2段階の評価規準及び中学部第1学年の少林寺拳法指導プログラムを作成後、A特別支援学校（聴覚障害）に在籍する中学部第1学年の生徒を対象に5回の授業を実施し、授業研究を通して評価規準及び指導プログラムの評価を行った。2年次は中学部第2学年の少林寺拳法指導プログラムを作成後、同生徒を対象に5回の授業を実施、3年次は中学部第3学年の少林寺拳法指導プログラムを作成後、同生徒に5回の授業を実施し、授業研究を通して指導プログラムの評価を行う。

1. 少林寺拳法の1・2段階の評価規準

学びの連続性が重視されている（文部科学省，2018c）ことから、一般財団法人少林寺拳法連盟（2021）から示されている中学校での少林寺拳法の指導における3観点（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）による評価規準を基に、文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター（2020）、文部科学省（2020）を参考とし、保健体育科（知的障害）1・2段階の少林寺拳法の指導における評価規準を作成した。

2. 少林寺拳法指導プログラム

連続性の観点から、中学校における既存の少林寺拳法指導プログラム（一般財団法人少林寺拳法連盟，2014；一般財団法人少林寺拳法連盟，2018；一般財団法人少林寺拳法連盟，2021；日本武道協議会・一般財団法人少林寺拳法連盟，2017）を参考に、保健体育科（知的障害）の武道の指導における少林寺拳法指導プログラムを作成した。なお授業を行う対象生徒は、保健体育科（知的障害）では2段階の目標及び内容を学習していたため、少林寺拳法指導プログラムも2段階の目標及び内容を踏まえて作成した。また、対象生徒が在籍する学校事情を踏まえ、少林寺拳法の指導は毎年5回の実施（1単位時間50分）で計画した。

3. 授業研究

A特別支援学校（聴覚障害）において、聴覚障害と知的障害を併せ有する中学部第1学年の生徒1名を対象とし、全体指導を筆頭著者が行い、体育科教員3名とともに202X年10月～12月に計5回の指導を実施した。対象生徒は両耳に補聴器を装着しており、聴覚活用の状況は良く、補聴器やロジャー補聴援助システムを通して、生活環境音に反応したり日常会話を聞き取っておおむね理解したりすることができる。言語発達に遅れがあるため、会話や授業の内容等を理解するために手話や文字などを補助的に使用している。なお筆頭著者は元特別支援学校教員で、2009年に専門学校禅林学園武道専門コース研究科を修了しており、少林寺拳法の資格は、正拳士（金剛禅の修行法に基づく修養度と教えの実践度を表す「法階」）、四段（少林寺拳法の教えと技法の修得度を示す「武階」）、少導師（金剛禅の修行法に基づく修養度と教えの実践度を表す「僧階」）であった。

Ⅲ. 結果

1. 少林寺拳法の1・2段階の評価規準

表1は、作成した1・2段階の少林寺拳法評価規準である。「思考・判断・表現」は、「思考・判断」と「表現」を分けて設定した。また「知識・技能」の「技能」では2段階の攻防に、投げる（逆技、固技、捕技を含む）ことを設定した。

表1 少林寺拳法評価規準（1段階・2段階）

特別支援学校 小学部・中学部学習指導要領 第2章 各教科 第2節 中学部 第2款 知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校 第1 各教科の目標及び内容 【保健体育】 2 各段階の目標及び内容 ○1段階 (2) 内容 F 武道				特別支援学校 小学部・中学部学習指導要領 第2章 各教科 第2節 中学部 第2款 知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校 第1 各教科の目標及び内容 【保健体育】 2 各段階の目標及び内容 ○2段階 (2) 内容 F 武道							
学習指導要領 内容		武道について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	学習指導要領 内容		武道について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
		武道の楽しさを感じ、その行い方や伝統的な考え方が分かり、基本動作や基本となる技を用いて、簡易な攻防を展開すること。	武道の楽しさや喜びに触れ、その行い方や伝統的な考え方を理解し、基本動作や基本となる技を用いて、簡易な攻防を展開すること。	武道についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	武道に進んで取り組み、きまみや伝統的な行動の仕方を守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をすること。			武道の楽しさや喜びに触れ、その行い方や伝統的な考え方を理解し、基本動作や基本となる技を用いて、簡易な攻防を展開すること。	武道についての自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりし、自己の力を発揮して運動をすること。	武道に進んで取り組み、きまみや伝統的な行動の仕方を守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をしようとしている。	武道に積極的に取り組み、きまみや伝統的な行動の仕方を守り、友達と助け合ったり、場や用具の安全に留意したりし、自己の力を発揮して運動をしようとしている。
文部科学省（2020）特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料、pp.120-126、を参考に筆者作成				文部科学省（2020）特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料、pp.120-126、を参考に筆者作成							
内容のまとまりとしての評価規準		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		内容のまとまりとしての評価規準		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
		○知識 武道の行い方や伝統的な考え方が分かっている。	○思考・判断 武道についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしている。	武道に進んで取り組み、きまみや伝統的な行動の仕方を守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をしようとしている。				○知識 武道の行い方や伝統的な考え方を理解している。	○思考・判断 武道についての自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしている。	武道に積極的に取り組み、きまみや伝統的な行動の仕方を守り、友達と助け合ったり、場や用具の安全に留意したりし、自己の力を発揮して運動をしようとしている。	
		○技能 武道に関する基本動作や基本となる技を用いている。	○表現 考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えている。					○技能 武道に関する基本動作や基本となる技を用いている。	○表現 友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えている。		
少林寺拳法評価規準				少林寺拳法評価規準							
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
		○知識 武道の行い方や伝統的な考え方が分かっている。	○思考・判断 武道についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしている。	武道に進んで取り組み、きまみや伝統的な行動の仕方を守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をしようとしている。				○知識 少林寺拳法では、基本動作や基本となる技を用いて突く、蹴る、受ける、抜くなどの簡易的な攻防をすることができる。	○思考・判断 武道についての自分やグループの課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしている。	武道に積極的に取り組み、きまみや伝統的な行動の仕方を守り、友達と助け合ったり、場や用具の安全に留意したりし、自己の力を発揮して運動をしようとしている。	
		○技能 少林寺拳法では、基本動作や基本となる技を用いて突く、蹴る、受ける、抜くなどの簡易的な攻防をすることができる。	○表現 考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えている。					○技能 少林寺拳法では、基本動作や基本となる技を用いて突く、蹴る、受ける、抜く、投げるなどの簡易的な攻防をすることができる。	○表現 友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えている。		

2. 少林寺拳法指導プログラム

実施したプログラムは、講話（「少林寺拳法とは」、「人づくりの道（行）」、「武」としての少林寺拳法」、「ほんとうの強さ」とは）、礼法・作法・基本動作、内受突（裏）、上膊抜（片手）、演武練習、演武発表会の全5単位時間であった（表2-1から表2-5）。講話は資料を作成して配布し、文字はUDデジタル教科書体で作成、漢字にはルビがふられた。对人的技能（基本となる技、法形）は、内受突（裏）、上膊抜（片手）を扱った。内受突（裏）とは、攻者の上段逆突の攻撃に対し、守者は後者の裏に入り内受をし、続いて中段逆突をする科目である。内受突（裏）は入門後すぐに修練する科目（6級科目）であるため、指導の最初に取り上げた。また上膊抜（片手）は、攻者が上膊を強く掴み押してきたときに、守者は手法を行い、攻者の正面に入って自分の頬へ当たるくらい肘をあげ、肩を後ろへ引くようにして抜く科目である。上膊抜（片手）は内受突（裏）より上級で修練する科目（2級科目）であるが、力に頼らずとも、捕まれた手を抜くことが体感しやすい技であるため取り上げた。演武は、評価項目が記されている演武発表採点シートを作成し、互いの演武を評価するようにした。演武発表採点シートの評価項目は、「合掌礼ができたか」「構えができたか」「前足を斜め前に踏み込んで振身ができたか（内受突裏）」「五指を張り、腕刀で内受ができたか（内受突裏）」「脇を締め上膊と内腕刀で手を挟む守法ができたか（上膊抜片手）」「相手の正面に入り自分の頬へ当たるくらい肘をあげ肩を後ろへ引くようにして抜くことができたか（上膊抜片手）」「反撃は届いたか」「気合いが出せたか」「相手から視線が外れていないか」「技が終わった後の心構えと身体の備えができたか」であった。

3. 授業研究

(1) 授業における工夫点

新型コロナウイルス感染症の対応としてマスクを着用し、気合いは小さめにしたこと、聴覚障害への配慮として、デジタルワイヤレス補聴援助システム Roger（PHONAK社製）のワイヤレスマイクロホン（送信機）ロジャータッチスクリーンマイクを使用したこと、コミュニケーション支援・会話の見える化アプリ「UDトーク」（ShamrockRecords社）を使用し、全体指導者が話した内容をモニターに表示できるようにしたこと、必要に応じてサブティーチャーが手話通訳を使用したこと、知的障害への配慮として、学習内容を文字カー

ドにより提示し、見通しをもてるようにしたこと、資料等にはルビをふったこと、説明や指示はゆっくり話すこと、の工夫を行った。その結果、学習内容の理解やコミュニケーションについては問題なく授業を展開することができた。一方、Rogerは首から吊り下げて使用したが、道衣のこすれる音を拾ってしまったり、防具を着用する際に支障となったりすることから改善が必要と考えられた。

(2) 生徒の自己評価、感想

毎時間、9～10項目について「もうすこし」「できた」「よくできた」の3段階の自己評価を行うとともに、最終授業終了後、生徒に感想を求めた。自己評価の項目は、毎時間共通のものは「自分や周りの人の健康や安全に注意して練習することができたか。」「相手を見て、心をこめた合掌礼ができたか。」「元気よく挨拶ができたか。」「礼儀正しく話を聞いたり練習したりすることができたか。」「結手立・合掌礼・座り方・立ち方ができたか。」「気合いは出せたか。」であった。講話についての項目は、「少林寺拳法について理解できたか。」「少林寺拳法は、人づくりの道（行）であることが理解できたか。」「武道の意味が理解できたか。」「ほんとうの強さについて理解できたか。」であった。他の項目は、基本動作や対人的技能（基本となる技、法形）等に関するもので、「相手を思いやりながら練習できたか。」「開足中段構、左前中段構、運歩法、振身ができたか。」「振り子突、逆突ができたか。」「内受突はできたか。」「上膊抜はできたか。」「自分や相手の課題を見つけ、考えたり工夫したりしたことを伝え合いながら練習できたか。」「演武のやり方を理解し、内受突と上膊抜ができたか。」「演武で、内受突と上膊抜ができたか。」「他の組の演武を見て、良かった点や課題点を伝えることができたか。」であった。

自己評価については、第1回から第5回までを比較すると、全ての項目において「もうすこし」の評価は一度も付けられず、「できた」よりも「よくできた」の評価の方が多かった。また、「気合いは出せたか。」の項目は、第1回から第4回まで「よくできた」の評価が一度も付けられなかったが、第5回では「よくできた」の評価となっていた。これらのことから全5回の学習を通して、知識や技能面での自信の高まりが見受けられたこと、第5回の演武では自分自身で納得のいく気合いが出せたこと、また他者からの良い評価を受けたことにより自己肯定感が高まったことがうかがえた。

授業終了後の感想については、「ほんとうの強さとは強い心をもって頑張ること、諦めないで頑張ることが分かった。」「礼法・作法・基本動作、技を体験したが、その中でも振り子突をうまくできてうれしかった。」という記述があったことから、知識・技能においての学びが充実していたことがうかがえた。また、「結手立ちは両足のかかとをくっつけることを忘れることが多かったので、できるように頑張りたい。」「また学習できる機会があれば、もっといろいろな技を覚えたい。」という記述があったことから、少林寺拳法をもっと学びたいという意欲が見られ、次回への期待感が現れていることがうかがえた。

授業に携わった教員による全5回の授業後の検討では、作成した中学部第1学年の少林寺拳法指導プログラムは妥当であったとの見解が示された。

(3) 観点別学習状況の評価

表3は、全5単位時間の少林寺拳法中学部第1学年の評価規準である。評価は授業に携わった教員とともに毎時間の評価と併せて検討され、今年度の授業では目標が達成できたと評価された。また作成した少林寺拳法の1・2段階の評価規準は妥当であったとの見解が示された。

(4) 少林寺拳法の授業についての学校の評価

学校からの評価として、少林寺拳法は身体の接触が少なく防具不要で体操着のまま行えることから、聴覚障害があり補聴器を装着している生徒にとって、他の武道と比較して安心安全に活動できる取組であることを知る機会になったということが挙げられた。また、もともと自分自身の評価が低い生徒であったが、中学部から新しく始まる武道という単元の中で、本人にとってあまり親しみのない少林寺拳法に最後まで意欲的に取り組めたという経験は、生徒の自信や勇気、行動力を養う一助となったと考えられたこと、さらに生徒の授業態度や毎時間の感想からは次回への意欲が現れており、継続してスポーツに取り組んだり関わったりする機会になったことも成果として挙げられた。

(5) まとめ

以上の結果から、中学部保健体育科（知的障害）の武道の指導における少林寺拳法1・2段階の評価規準（表1）及び中学部第1学年の指導プログラム（表2-1から表2-5）を提案する。

少林寺拳法は、補聴器を装着している聴覚障害の生徒にとっても安全に実施できること、防具や道衣等の準備も不用であるため、金銭面の負担なく実施できることが再確認できた。また、新しいことに挑戦しようとするのが少なかった本生徒が、普段の学校生活の中でも新しいことに挑戦しようとする変容がみられるようになったことから、自信や勇気、行動力がついたことがうかがわれ、少林寺拳法の授業は本生徒にとって有効であったと考えられた。さらに知的障害のある生徒でも、中学部保健体育科の内容が履修可能な発達段階であれば、十分指導が可能であることが示唆された。関連して、聴覚障害の配慮としては、デジタルワイヤレス補聴援助システムの使用、「UDトーク」の使用、チーム・ティーチングによる必要に応じた手話の使用、知的障害への配慮としては、文字カード等による視覚的支援、資料等にはルビをふること、説明や指示はゆっくり話すこと、が有効であると考えられた。

表 2-1 少林寺拳法 1 時間目の学習指導略案

本 時 案 (指導計画 5 時間の 1 時間目)			
本時のねらい	1 伝統的な文化（少林寺拳法）に関心をもち、正しい礼法・作法を身に付ける。 2 基本動作を身に付ける。		
	学習活動	指導上の留意点	評 価
導 入	1 集合・点呼、挨拶をし、本時の活動内容とねらいを確認する。	○授業全体を通して、手話を併用して話す。 ○生徒全員が挨拶できているか確認し、できていなければやり直すなど、きちんとした挨拶が習慣になるように指導する。	
	2 健康観察・準備運動をする。	○音声認識アプリを使用して、説明に文字を補う。 ○本時の活動内容を簡条書きにして説明する。 ○目標を明確にするため、本時のねらいを説明する（各種構え、運歩法、振身、振り突、逆突）。 ○自他の健康・安全に配慮する習慣を養うために爪、練習場所などの安全確認を指示する。	
展 開	3 少林寺拳法について学ぶ。	○重要な語句や動作の名称について、カードを活用し提示する。 ○少林寺拳法は、自分を高め続け、周囲の人々と協力して平和で豊かな社会を築くために行動できる人を育てる道（行）であることを説明する。	○少林寺拳法の目的を理解できたか。 （自己評価シート、生徒の様子） 【知識】
	4 礼法・作法を学ぶ。 ○結手立、合掌礼を学ぶ。 ○着座・安座の作法を学ぶ。 ○黙想をする。 ○「結手立→合掌礼→着座→安座→黙想→起立」を二人一組で練習する。 5 基本動作を学ぶ。 ○開足中段構・左前中段構の練習をする。 ○運歩法・振身の練習をする。 ○気合を出しながら、振り突、逆突の練習をする。	○正しい礼法・作法を身に付けるために、手の位置、目線、姿勢、動作について示範し説明する。 ○動作を覚えやすくするために、作法の動きに号令を付ける。 ○動作の意味を説明し、作法に対する関心を高める。 ○目を閉じて黙想の意義を説明し、気持ちを落ち着けられるようにする。 ○礼法・作法の仕方を定着させるため、生徒同士が助言し合ったり、動きを確認したりする場面を設定する。 ○構えには、次動作の準備や攻撃を誘う意味があることを説明する。 ○運歩法、振身は相手の攻撃をかわす大切な技術であることを説明する。 ○肩、腰の回転を使った突きの説明をする。 ○「ゆっくり大きく」から「速く」にテンポを変える。 ○正確な突きをするために、足先の方向に気を付けるよう指示する。 ○振身、運歩法を併用し、確実に相手の攻撃をかわす意識をもつように指示する。	○礼法・作法に関心をもち、正しい動きができたか。 （自己評価シート、生徒の様子） 【主体的に学習に取り組む態度】 ○基本動作の意味を理解し、正しい基本動作ができたか。 （自己評価シート、生徒の様子） 【技能】
ま と め	6 整理運動をし、健康観察をする。 7 本時を振り返り、自己評価シートにまとめる。 8 次時の予告を聞き挨拶をする。	○よく使った部位を中心に整理運動をし、疲労を残さないようにする。健康観察をする。 ○音声認識アプリを使用して、説明に文字を補う。 ○学習の定着を図るため、本時のねらいと、学習した内容を再確認する。 ○次時の予告をし、学習意欲の継続を図る。 ○生徒全員が挨拶できているか確認し、できていなければやり直すなど、きちんとした挨拶が習慣になるように指導する。	

表 2-2 少林寺拳法 2 時間目の学習指導略案

本 時 案 (指導計画 5 時間の 2 時間目)			
本時のねらい		1 武道の意味について考え、正しい武道の在り方を理解する。 2 基本となる対人技能 (内受突) を身に付ける。	
	学習活動	指導上の留意点	評 価
導 入	1 集合・点呼、挨拶をし、本時の活動内容とねらいを確認する。 2 健康観察・準備運動をする。 3 黙想をする。	○授業全体を通して、手話を併用して話す。 ○生徒全員が挨拶できているか確認し、できていなければやり直すなど、きちんとした挨拶が習慣になるように指導する。 ○音声認識アプリを使用して、説明に文字を補う。 ○本時の活動内容を箇条書きにして説明する。 ○目標を明確にするため、本時のねらいを説明する (内受突)。 ○自他の健康・安全に配慮する習慣を養うために、爪、練習場所などの安全確認を指示する。 ○作法に従って目を閉じて黙想し、武道の練習にふさわしい気持ちにする。	
展 開	4 人づくりの道 (行) について説明を聞く。 5 内受突の練習をする。 ○全員で攻撃をする側の動きを練習する。 ○全員で防御し反撃する側の動きを練習する。 ○二人組で内受突の練習をする (対人的技能) ○間合について学習する。 ○攻撃と防御に分かれ、相手の動きに応じた攻防の練習をする。 ○練習相手を替えて、合掌礼・練習・合掌礼を繰り返す。	○重要な語句や動作の名称について、カードを活用し提示する。 ○開祖が説いた「行」という漢字の成り立ちを説明し、自己確立と自他共楽を目指す道 (行) を理解しやすくする。 ○構え、突きを復習し定着を図ると共に、内受突についての学習意欲を高める。 ○技のイメージがつかめるように内受突の模範を見せる。 ○動作を覚えやすくするために、動きに号令を付けて練習するよう指示する。 ○正確な突きができるように、突いた状態で静止させ、突く位置の確認をする。 ○残心の意味を説明し、練習中に気を抜かない態度を養う。 ○攻撃をかわす意識を常にもって練習するように指示する。 ○基本間合と遠間を確認し、安全のため互いの攻撃が届かない距離から練習するように指示する。 ○足捌と内受の両方で、確実に相手の攻撃をかわすことを指示する。 ○反撃が中段を突いているか観察し、正確に突けていない場合は指導する。(反撃は20cm手前で止める) ○相手を見ながら、正しい姿勢で心を込めた合掌礼を促す。 ○練習相手を替え、誰とでも教え合える習慣を身に付ける。	○自己確立と自他共楽の意味が理解できたか。 (自己評価シート、生徒の様子) 【知識】 ○足捌と内受の両方で攻撃をかわすことができたか。 ○中段へ反撃できたか。 (自己評価シート、生徒の様子) 【技能】 ○内受突に積極的に取り組んでいたか。 ○正しい姿勢で合掌礼ができたか。 (自己評価シート、生徒の様子) 【主体的に学習に取り組む態度】
ま と め	6 整理運動をし、健康観察をする。 7 本時を振り返り、自己評価シートにまとめる。 8 次時の予告を聞き挨拶をする。	○よく使った部位を中心に整理運動をし、疲労を残さないようにする。健康観察をする。 ○音声認識アプリを使用して、説明に文字を補う。 ○学習の定着を図るため、本時のねらいと、学習した内容を再確認する。 ○次時の予告をし、学習意欲の継続を図る。 ○生徒全員が挨拶できているか確認し、できていなければやり直すなど、きちんとした挨拶が習慣になるように指導する。	

表 2-3 少林寺拳法 3 時間目の学習指導略案

本 時 案 (指導計画 5 時間の 3 時間目)			
本時のねらい	1 武道の意味について考え、正しい武道の在り方を理解する。 2 基本となる対人技能（上膊抜）を身に付ける。 3 相手を思いやる気持ちと協調性を養う。		
学習活動	指導上の留意点	評 価	
導 入	1 集合・点呼、挨拶をし、本時の活動内容とねらいを確認する。 2 健康観察・準備運動をする。 3 黙想をする。	○授業全体を通して、手話を併用して話す。 ○生徒全員が挨拶できているか確認し、できていなければやり直すなど、きちんとした挨拶が習慣になるように指導する。 ○音声認識アプリを使用して、説明に文字を補う。 ○本時の活動内容を箇条書きにして説明する。 ○目標を明確にするため、本時のねらいを説明する（上膊抜）。 ○自他の健康・安全に配慮する習慣を養うために爪、練習場所などの安全確認を指示する。 ○作法に従って目を閉じて黙想し、武道の練習にふさわしい気持ちにする。	
展 開	4 武道の意味について説明を聞く。 5 上膊抜を 2 人組で練習をする。 6 2 人組で技のポイントを確認しあいながら練習する。 7 上膊抜を発表する。	○重要な語句や動作の名称について、カードを活用し提示する。 ○「武」という漢字の成り立ちを説明し、武道の在り方を理解しやすくする。 ○技のイメージがつかめるように上膊抜の模範を見せる。 ○動作を覚えやすくするために、動きに号令を付けて練習するよう指示する。 ○攻撃する側は、相手のことを考え、強く握りすぎたりしないように指示する。 ○防御する側は、抜く腕の肘を曲げ、肩を中心に大きく回すよう指示し、力を入れなくても抜けるようにする。 ○上記の技のポイントをホワイトボードに示し、生徒同士が教え合いやすくなる条件を整える。 ○号令を付けずに、相手の動きや力に応じた抜技の練習をするなど対人的技能の向上を図る。 ○見る態度や発表者への拍手を指示し、互いに練習の成果を評価し合える雰囲気を作る。	○武道の意味、正しい武道の在り方を理解できたか。 (自己評価シート、生徒の様子) 【知識】 ○技のポイントを理解し、相手の動きに応じた上膊抜ができたか。 (自己評価シート、生徒の様子) 【技能】 ○自分や相手の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしていたか。 (自己評価シート、生徒の様子) 【思考・判断】 ○友達と考えたり、工夫したりしたことを伝え合っていたか。 (自己評価シート、生徒の様子) 【表現】 ○意欲的に教え合い、相手を思いやりながら互いに協力して練習できたか。 (自己評価シート、生徒の様子) 【主体的に学習に取り組む態度】
ま と め	8 整理運動をし、健康観察をする。 9 本時を振り返り、自己評価シートにまとめる。 10 次時の予告を聞き挨拶をする。	○よく使った部位を中心に整理運動をし、疲労を残さないようにする。健康観察をする。 ○音声認識アプリを使用して、説明に文字を補う。 ○学習の定着を図るため、本時のねらいと、学習した内容を再確認する。 ○次時の予告をし、学習意欲の継続を図る。 ○生徒全員が挨拶できているか確認し、できていなければやり直すなど、きちんとした挨拶が習慣になるように指導する。	

表 2-4 少林寺拳法 4 時間目の学習指導略案

本 時 案 (指導計画 5 時間の 4 時間目)			
本時のねらい	1 少林寺拳法が求める「本当の強さ」を理解する。 2 対人的技能(内受突, 上膊抜)を復習し, 演武の仕方を身に付ける。 3 協力して楽しく運動する態度を養う。		
	学習活動	指導上の留意点	評 価
導 入	1 集合・点呼, 挨拶をし, 本時の活動内容とねらいを確認する。 2 健康観察・準備運動をする。 3 黙想をする。	○授業全体を通して, 手話を併用して話す。 ○生徒全員が挨拶できているか確認し, できていなければやり直すなど, きちんとした挨拶が習慣になるように指導する。 ○音声認識アプリを使用して, 説明に文字を補う。 ○本時の活動内容を箇条書きにして説明する。 ○目標を明確にするため, 本時のねらいを説明する(演武の仕方)。 ○自他の健康・安全に配慮する習慣を養うために爪, 練習場所などの安全確認を指示する。 ○作法に従って目を閉じて黙想し, 武道の練習にふさわしい気持ちにする。	
展 開	4 本当の強さについて説明を聞く。 5 内受突, 上膊抜のポイントを確認し練習する(復習)。 6 演武を 2 人組で練習する。 ①合掌礼 ②構え, 内受突, 残心(攻撃・防御交替) ③構え, 上膊抜, 残心(攻撃・防御交替) ④合掌礼 7 2 人組で演武の発表をする。	○重要な語句や動作の名称について, カードを活用し提示する。 ○少林寺拳法は, しっかりした自分, 頼れる自分をつくることを目指していることを説明する。 ○安全のため, 互いの攻撃が届かない距離から練習するよう指示する。 ○動作を確認し, 演武のポイントである, 気合い, 間合い, 正確さ, 流れが途切れないなどについて説明する。 ○4 人組で, 見せ合ったり, 教え合ったりできるよう, 演武の流れ, 技のポイントなどをホワイトボードに提示する。 ○反撃は 20cm 手前で止めることを注意する。 ○気迫のこもった演武になるよう, 構えと誘い, 気合い, 残心の大切さを説明する。 ○大きな気合いが出るよう, 和やかな授業の雰囲気を作る。 ○見る態度や発表者への拍手を指示し, 互いに練習の成果を評価し合える雰囲気を作る。	○本当の強さについて理解できたか。 (自己評価シート, 生徒の様子) 【知識】 ○自分や相手の課題を見つけ, その解決のための活動を考えたり, 工夫したりしていたか。 (自己評価シート, 生徒の様子) 【思考・判断】 ○友達と考えたり, 工夫したりしたことを伝え合っていたか。 (自己評価シート, 生徒の様子) 【表現】 ○意欲的に教え合い, 相手を思いやりながら互いに協力して練習できたか。 (自己評価シート, 生徒の様子) 【主体的に学習に取り組む態度】 ○演武の仕方を理解し, 相手の動きに応じた対人的技能ができたか。 (自己評価シート, 生徒の様子) 【技能】
ま と め	8 整理運動をし, 健康観察をする。 9 本時を振り返り, 自己評価シートにまとめる。 10 次時の予告を聞き挨拶をする。	○よく使った部位を中心に整理運動をし, 疲労を残さないようにする。健康観察をする。 ○音声認識アプリを使用して, 説明に文字を補う。 ○学習の定着を図るため, 本時のねらいと, 学習した内容を再確認する。 ○次時の予告をし, 学習意欲の継続を図る。 ○生徒全員が挨拶できているか確認し, できていなければやり直すなど, きちんとした挨拶が習慣になるように指導する。	

表 2-5 少林寺拳法 5 時間目の学習指導略案

本 時 案 (指導計画 5 時間の 5 時間目)			
本時のねらい		1 対人的技能（内受突，上膊抜）を復習し，演武の仕方を身に付ける。 2 協力して楽しく運動する態度を養う。	
	学習活動	指導上の留意点	評 価
導 入	1 集合・点呼，挨拶をし，本時の活動内容とねらいを確認する。	○授業全体を通して，手話を併用して話す。 ○生徒全員が挨拶できているか確認し，できていなければやり直すなど，きちんとした挨拶が習慣になるように指導する。 ○音声認識アプリを使用して，説明に文字を補う。	
	2 健康観察・準備運動をする。	○本時の活動内容を箇条書きにして説明する。 ○目標を明確にするため，本時のねらいを説明する（演武の仕方）。	
	3 黙想をする。	○自他の健康・安全に配慮する習慣を養うために爪，練習場所などの安全確認を指示する。 ○作法に従って目を閉じて黙想し，武道の練習にふさわしい気持ちにする。	
展 開	4 演武発表会の方法と採点シートの説明を聞く。	○重要な語句や動作の名称について，カードを活用し提示する。 ○作法に従って演武発表会ができるよう，返事の仕方，組演武の始め方や終わり方などを説明する。	○演武の中で対人的技能（内受突，上膊抜）ができたか。（自己評価シート，生徒の様子） 【技能】
	5 2人組で，発表会の作法と組演武の練習をする。 ①合掌礼 ②構え，内受突，残心（攻撃・防御交替） ③構え，上膊抜，残心（攻撃・防御交替） ④合掌礼	○組演武構成，採点のポイント，採点シートの記入方法などを説明し，演武発表会への関心を高める。 ○2人組で，見せ合ったり，教え合ったりできるように，演武の流れ，技のポイント，採点のポイントをホワイトボードに提示しておく。 ○気迫のこもった演武になるよう，構えと誘い，気合い，残心の大切さを説明する。	○発表会の作法，演武の流れを理解し，意欲的に発表できたか。 （自己評価シート，生徒の様子） 【主体的に学習に取り組む態度】
	6 演武発表会をする。 合掌礼→技能→合掌礼の組演武を，1組ずつ行い全員で評価する。	○見る態度や発表者への拍手を指示し，互いに練習の成果を評価し合える雰囲気を作る。 ○終わりの合掌礼の後に，採点シートに記入するよう指示し，発表者への礼儀，演武発表会の在り方を考えられるようにする。 ○採点者は演武者に評価をフィードバックし，良かった点や修正した方が良い点を伝える。	○演武における自分や友達の課題を見付け，その解決のための活動を考えたり，工夫したりしていたか。 （自己評価シート，生徒の様子） 【思考・判断】
7 まとめの練習をする。	○ICT機器を使ってVTRを撮影しておき，最後に指導者がVTRを見ながら講評を行う。 ○評価を受け，最後にまとめの練習を行う。	○友達と考えたり，工夫したりしたことを伝え合っていたか。 （自己評価シート，生徒の様子） 【表現】	
ま と め	8 整理運動をし，健康観察をする。 9 本時を振り返り，自己評価シートにまとめる。 10 来年度の予告を聞き，挨拶をする。	○よく使った部位を中心に整理運動をし，疲労を残さないようにする。健康観察をする。 ○音声認識アプリを使用して，説明に文字を補う。 ○学習の定着を図るため，本時のねらいと，学習した内容を再確認する。 ○来年度の予告をし，学習意欲の継続を図る。 ○生徒全員が挨拶できているか確認し，できていなければやり直すなど，きちんとした挨拶が習慣になるように指導する。	

表3 少林寺拳法中学部第1学年評価規準

評価の観点	評価規準	評価	
知識・技能	知識	●少林寺拳法の目的、自己確立と自他共栄の意味、武道の意味、正しい武道の在り方、本当の強さについて理解できたか。	○
	技能	●礼法・作法、基本動作、内受と中段への反撃、上膊抜ができたか。 ●演武の仕方を理解し、演武の中で相手の動きに応じた対人的技能（内受突、上膊抜）ができたか。	◎ ○
思考・判断・表現	思考・判断	●自分や相手の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしていたか。 ●演武における自分や友達の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしていたか。	○ ○
	表現	●友達と考えたり、工夫したりしたことを伝え合っていたか。	○
主体的に学習に取り組む態度		●礼法・作法に関心をもち、正しい動きをしようとしていたか。	◎
		●内受突、上膊抜に積極的に取り組もうとしていたか。	◎
		●安全に留意し活動していたか。	◎
		●意欲的に教え合い、相手を思いやりながら互いに協力して練習していたか。 ●発表会の作法、演武の流れを理解し、意欲的に発表していたか。	○ ◎

IV. おわりに

今後は引き続き本研究を継続し、中学部第2学年、第3学年の少林寺拳法指導プログラムを開発するとともに、対人的技能（基本となる技、法形）の選択方法、ICTの活用方法、評価方法について検討していきたい。さらに機会があれば、他の障害種の特別支援学校（視覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱）における少林寺拳法採択の可能性についての検討も行っていきたい。

倫理的配慮

本研究は、弘前大学教育学部研究倫理委員会の承認を得て実施され、対象生徒及び保護者に対し事前に説明を行い、研究発表や出版物への発表・掲載について文書による承諾を得るとともに、所属長からも同様の承諾を得た。また、本研究に当たって開示すべき利益相反関係はない。

付記

本研究は、日本特殊教育学会第60回大会においてポスター発表を行った。

文献

- 一般財団法人少林寺拳法連盟ホームページ 中学武道必修化へのとりくみ。一般財団法人少林寺拳法連盟、<https://www.shorinjikempo.or.jp/federation/compulsory/features> (2022年10月5日閲覧)。
- 一般財団法人少林寺拳法連盟 (2014) 中学校保健体育少林寺拳法指導の手引 (二訂版)。
- 一般財団法人少林寺拳法連盟 (2018) 少林寺拳法読本。
- 一般財団法人少林寺拳法連盟 (2021) 中学校武道授業推進特別研修会資料。
- 桑島亜紀 (2019) 聞こえにくい子どもたちの特性や体の状態に合わせた武道授業の実践。公益財団法人日本武道館 (編集・発行), 月刊「武道」2019年2月号。ベースボール・マガジン社, 168-173。
- 高坂正治 (2019) 特別支援学校 (中学部) における武道 (少林寺拳法) 授業の実践報告。国際武道大学教職課程部会教職課程研究, 4, 15-24。
- 文部科学省 (2018a) 中学校学習指導要領 (平成29年告示)。東山書房。
- 文部科学省 (2018b) 中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 保健体育編。東山書房。
- 文部科学省 (2018c) 特別支援学校幼稚部教育要領 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領。海文堂。
- 文部科学省 (2018d) 特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編 (小学部・中学部)。開隆堂。
- 文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター (2020) 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 保健体育。
- 文部科学省 (2020) 特別支援学校小学部・中学部 学習評価参考資料。
- 日本武道協議会・一般財団法人少林寺拳法連盟 (2017) 日本武道協議会設立40周年記念「中学校武道必修化指導書 少林寺拳法」。三友社。
- 吉川英夫 (2021) 中学校武道必修化第6回アンケート調査結果について。公益財団法人日本武道館 (編集・発行), 月刊「武道」2021年12月号。ベースボール・マガジン社, 148-167。